

多発性骨髄腫研究助成 2014 年度研究課題選考会総括

上記選考会を 2014 年 3 月 15 日メルパルク京都にて日本骨髄腫患者の会・副代表上甲恭子様お立ち会いのもと、応募のあった研究課題 11 題について各研究の「重要性」「計画・方法の妥当性」「独創性」「波及効果」「遂行能力・研究環境」の 5 つの評価項目及び総合評価について、5 名の選考委員より事前に提出された集計結果と総合評価に対して、更なる意見交換を行った上で、研究課題を採択しました。

なお、本年度の研究助成事業においては、2 つの研究課題に対して助成予定であったところ、選考委員会の議論において、本事業の目指すところに合致する優れた重要研究課題として、堀之内朗記念助成 1 題および特別助成 2 題の計 3 課題を採択しました。その結果を日本骨髄腫患者の会は了承し、助成金を準備されることとなりました。

採択した課題は以下のとおりです。

堀之内朗記念助成 助成額 200 万円

日本医科大学 血液内科 田村秀人先生

「骨髄腫における SLAM ファミリー分子の機能とそれらを標的としたキメラ抗原受容体遺伝子改変 T 細胞免疫療法」

特別助成 助成額 150 万円

国立大学法人九州大学・大学院農学研究院 立花宏文先生

「多発性骨髄腫特異的な新規アポトーシス誘導経路の解明」

特別助成 助成額 50 万円

金沢大学医薬保健研究域医学系細胞移植学（血液・呼吸器内科）高松博幸先生

「次世代シーケンサー等を用いた骨髄腫微小残存病変検出法の確立」

応募いただきました課題はいずれも難治性疾患である多発性骨髄腫の克服に重要かつ優れた研究でありました。採択されました田村秀人先生の研究課題は多発性骨髄腫に対する新たな免疫療法の開発に関する基礎的研究であり、立花宏文先生の研究課題は新しい細胞死のメカニズムの解明と新規薬剤の開発に関する研究です。また、高松博幸先生の研究課題は骨髄腫の治療戦略を考える上で臨床的にはきわめて重要な課題です。いずれの課題も、独創性・革新性にすぐれ、今後の発展を大いに期待したいところであります。基礎・臨床を問わず、今後も骨髄腫研究の発展と診療の向上をめざし、日夜奮闘されておられる諸先生から多数の応募があることを祈っております。

2014年3月

日本骨髄腫患者の会研究助成 選考委員会委員長

日本骨髄腫学会理事

島崎 千尋